SDGs新聞	アスクル株式会社
「木の畑」って知ってる？	

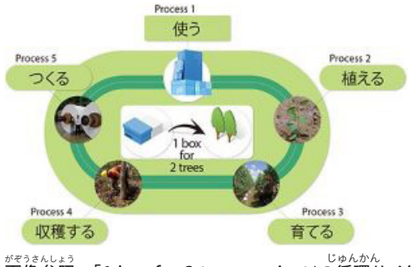
SDGsラジオを読んでみよう！

「紙」って、何からできているか知っていますか？そう、「木」ですよね。みなさんがノートや教科書を使えるのも、木のおかげです。
一方で紙をつくるには、木を切らないといけないので、紙をつくればつくるほど、地球から木がどんどん減ってしまいます。
そこで、文房具をはじめ、さまざまな商品のネット通販を行っている「アスクル」では、
コピー用紙1箱（5000枚）分を買うと、そのお金の一部で2本の木を「木の畑」に植えられる
「1 box for 2 trees project（ワンボックス　フォー　トゥー　ツリーズ　プロジェクト）」を行っています。
A4サイズのコピー用紙1箱分をつくるには、アカシアやユーカリなどの木が1本必要だと言われていることから、
1箱につき、2本ずつ植えていきます。
2010年からプロジェクトがインドネシアでスタートし、これまでに2億数千万本もの木が植えられました。
植えて、育てて、収穫して、また植える。では次に、紙を大切にするためには何ができるか？話し合ってみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：アカシアの植林イメージ（アスクル公式HPより）

みなさんが授業で使っている教科書やノート、プリントなどの紙は、主に木からできています。現在では、古紙などのリサイクル原料によってつくられている場合も多いですが、木を原料にする場合、A4サイズ（210×297mm）のコピー用紙１箱分（5,000枚）をつくるには、原材料となるアカシアやユーカリの木が1本必要といわれています。そこで、さまざまな商品のネット通販を行っている会社「アスクル」では、「1 box for 2 trees project（直訳：1箱に対して2本の木）」というプロジェクトをインドネシアではじめました。



画像参照：「1 box for 2 trees project」の循環サイクルイメージ画像
（アスクル公式HPより）

これは、コピー用紙1箱を販売するたびに、コピー用紙の原材料となるアカシアやユーカリなどの木「2本以上の植林を確認するプロジェクト」で、2010年からスタートしました。プロジェクト開始からの10数年間で、のべ約2億3000万本以上のアカシアなどの木が「木の畑」で植林され、コピー用紙へと生まれ変わっています。「植えて、育てて、収穫する」。アスクルは、これからも「1 box for 2 trees project」を通じて、木を大切にする取り組みを続けていきます。

キーワード

アカシア

マメ科の常緑樹で、熱帯から温帯にかけて広く分布します。他の木と比べて成長が早いのが特徴です。

インドネシア

東南アジア南部に位置し、約17,500の島からなる国。人口は約2億7000万人で、世界第4位の規模を誇ります。

植林

木材の生産や森林保全を目的として、苗木を植えることです。

対象ゴール

みなさんにできること！	
紙のムダづかいを減らすために、なにができるか考えてみましょう。	
おさらい	● A4のコピー用紙5,000枚をつくるためには、アカシアなどの木が１本必要。 ●「アスクル」では、インドネシアでアカシアなどの植林を確認している。 ●「木の畑」で植林したアカシアなどの成木を収穫し、新たなコピー用紙をつくっている。

メモ

SDGs ラジオ